

## 観光社会資本の事例

テーマ	やすらぎの川面の再生
【施設の状況写真】	
	
<p>かつて麻綱で舟を引いた綱手道の整備や雑割石や松丸太を使用する伝統的な工法で河川を整備することで、一体的な景観形成が図られています。</p>	<p>江戸時代から大正にかけて巴波川舟運の物資集積地として繁栄した面影を残す風景は「蔵の街」と呼ばれています。</p>
【施設の利用写真】	
	
<p>10万匹の鯉が群泳する巴波川や白壁土蔵、黒壁や格子造りの商家をめぐる約4kmのコース「蔵の街遊歩道」が多くの方に楽しまれています。</p>	<p>毎年夏には、「百八燈流し」が行われ、県内のみならず、県外からも多くの観光客が訪れています。</p>
【観光資源としての利用状況】	
<p>かつて麻綱で舟を引いた綱手道の整備や伝統的な工法による河川整備が行われる一方、蔵を利用した観光施設が整備された。これにより栃木市中心部に都市観光の核となる地区と散策ルートが形成され、「蔵の街」あるいは「小江戸」という観光イメージが定着しました。</p> <p>また、河川浄化を行うなど水質の改善も図っており、今では10万匹の鯉が群泳する河川になっていることから、「鯉のいる街」とも呼ばれています。</p> <p>巴波川は、栃木市の歴史的景観を有する観光拠点の一つであり、市民の日常的な憩いの場にもなっています。</p>	

テーマ	やすらぎの川面の再生	
【社会資本の基礎データ】		
名称	一級河川 <small>うずまがわ</small> 巴波川	
所在地	栃木県栃木市	
事業名	ふるさとの川整備事業	
事業主体	栃木県・栃木市	
事業期間	昭和62年度～平成15年度	
【社会資本の役割・効果】		
<p>巴波川の舟運は、元和3年(1617年)徳川家康の霊柩を日光に移した際、御用の荷物を栃木に陸揚げしてから始まったといわれ、栃木と江戸方面をむすぶ交通路として大いに利用され、江戸時代から大正時代にかけて、巴波川沿いは物資集積所として、多くの集荷問屋が建ち並び繁栄をきわめました。</p>		
<p>現在も、かつての商都としての面影を色濃く残しており、巴波川沿川には約450棟を超える蔵が現存し、江戸の歴史と情緒の漂う街並みを形成しています。</p>		
<p>この、蔵のある街並みに調和するため、雑割石や松丸太などを使用する伝統的な工法で河川整備を行うことで、歴史的風景の維持に貢献しました。</p>		
<p>また、併せて河川浄化を行うなど水質の改善も図っており、今では10万匹の鯉が群泳する河川であります。その風情は「鯉のいる街、蔵の街栃木」のシンボルとなっております。</p>		
【位置図】 巴波川とその周辺の観光施設		
【関連ホームページ】		
河川関係:	栃木県河川課	<a href="http://www.pref.tochigi.jp/kasen/index0.html">http://www.pref.tochigi.jp/kasen/index0.html</a>
観光・イベント関係:	栃木市	<a href="http://www.city.tochigi.tochigi.jp/">http://www.city.tochigi.tochigi.jp/</a>
観光協会:	栃木市観光協会	<a href="http://www.cc9.ne.jp/t-kankou/">http://www.cc9.ne.jp/t-kankou/</a>